

荒川三山 赤石岳

山行日：2018年8月2日（木）～5日（日）

工程：1日 松戸＝東京＝静岡＝畑薙＝樺島

2日 樺島ロッジ 5:27－林道分岐－小石下－清水平－見晴台－駒鳥池－千枚小屋 12:59

3日 千枚小屋 3:56－千枚岳 4:40－丸山 5:49－東岳 6:35－中岳 8:32－前岳 8:43－荒川小屋 10:02－大聖寺分岐－小赤石岳 13:12－赤石岳 14:04－赤石岳避難小屋 14:24

4日 避難小屋 3:45－砲台型休憩所－富士見平－赤石小屋 7:07－東尾根上小ピーク－小広場－中電基準点－樺島 10:59＝畑薙＝静岡＝品川＝松戸

東京駅の新幹線自由席でメンバーが集合し、静岡駅までは、快適なスピードであったが、10時前に静岡駅を出た、しずてつバスと、畑薙で乗り換えた東海フォレストのバスで揺られること、約6時間半のバス旅はこれから向かう南アルプスの懐の深さを十分に感じられた。

ロッジを出て、林道から新たに架けられた登山口の吊橋の振れは、登山者の速度を躊躇させるに十分なものであった。登山口からは、オオシラビソ等の木立で視界のない上り道が続き、清水平での美味しい湧き水で潤した時間をのぞく、約6時間経過した後に、見晴岩で初めて、青空の中の山を望んだときは、明日以降の天気を考慮し、早々の記念写真となった。初日の累積標高上り1600mに対し、累積標高下りは120mと、1日中登りの続く登山は初めての体験であった。

千枚小屋を4時前に出て、5時前に千枚岳で富士山と御来光を迎える。昨日とうって変わって、千枚岳の付近は、高山植物に満ち溢れ、マツムシソウやタカネナデシコ以外に、南アルプス特有の白、ピンクのタカネビランジ、タカネコウリンカ、シコタンハコベ等の花園を鑑賞した。千枚岳の後に3030mの丸山の頂上を登ると、以降、悪沢岳（荒川東岳）、荒川中岳、荒川前岳、小赤石岳、赤石岳の3000m以上の山を1日で6峰を登ることができた。悪沢岳頂上では、南アルプス北部から南部にわたるパノラマを堪能するとともに、雲間の富士山、中央アルプスを眺めた。荒川小屋から大聖寺分岐までの稜線下の長いトラバース路を楽しんだ。

大聖寺分岐を過ぎた先の、小赤石岳に続く砂ザレの急斜面は、ごまかしごまかし一步一步を進めた。小赤石岳から赤石岳までの稜線歩きは、砂ザレの疲れを一気に癒やしてくれた。本日最後の3000m峰の赤石岳頂上では、一時広がったガスもはれたが、夏山特有の積乱雲

のために十分な視界は得られなかった。一行は記念撮影を早々に、本日の宿である赤石岳避難小屋に入り、ビール等で山行を喜びあった。

最終日は、榎島からのバスの時間を考慮し、まだ暗い中、ヘッドライトの明かりを頼りに4時前の早い出発となった。赤石岳下の榎島分岐で、稜線をおり、北沢源頭のお花畑を一気に下る。赤石小屋前の富士見平で、荒川三山、赤石岳、聖岳を写真に収め、朝ボラの富士山も同様に写真に収めた。本日は、山行初日とうって変わっての、1日中下りの山行となり、本日の累積標高登りは150mに対して、累積標高下りは2100mとなり、南アルプス特有の黙々とした山行を楽しんだ。



荒川三山



赤石岳



千枚岳山頂



赤石岳山頂